

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	37410
事業名	ICC事業推進費					
評価担当課	所属名	経産産業振興部 産業振興課				
	課長名	小室	担当者名	伊藤	電話番号	011-211-2392
施策名	主	IT分野やクリエイティブ分野、健康福祉・医療分野の産業が、国				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他				
	目的	短期 本事業の取組により創出した他産業企業のクリエイティブ活用事例数(累計)(R2:25件 ⇒ 目標(R4):40件)				
		長期 映像、ゲーム、デザイン、などのクリエイティブ産業を振興することにより、他産業の付加価値向上や新たな産業の創出を図る。				
	取組内容	クリエイティブ産業と他産業の連携を促進し、クリエイティブ産業の活性化及び他産業の高度化を図るため、以下の取組を行う。 ①企業のクリエイティブ活用を促進するセミナー・コンペ等を実施 ②クリエイターのコンテンツ制作支援や学生向けワークショップを実施				
	実施結果	①参加企業3社の課題をテーマとしたデザインコンペを実施し、企業とクリエイターのマッチング事例を創出した(3件)。 ②クリエイターが新たな商品やサービスを生み出すための伴走支援を行った(1件)。デザイン団体と連携し、学生向けのワークショップを実施(2回、延べ58名参加)。				
事業実施における工夫点	クリエイティブ産業の振興は、クリエイターの育成のほか、クリエイティブ産業のユーザーである企業に向けた認知と理解の向上及び活用を促す機会の創出が必要である。多様な企業のネットワークを保有するさっぽろ産業振興財団に担わせることにより、一体的な振興施策を実現させている。					
対象者	市内クリエイティブ産業従事者、他産業企業等			開始	平成26年度	終了 0 年度
関連法令・条例・要綱等	なし					
他都市の状況	大阪市、仙台市、横浜市、神戸市などが、クリエイティブ産業の振興に取り組んでいる。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費	21,002	22,000	20,626	27,500
うち特定財源	0	0	0	0
人工	0.6	0.6	0.6	1.0
人件費	4,320	4,320	4,320	7,100
計(事業費+人件費)	25,322	26,320	24,946	34,600
事業費の内訳	令和4年度決算	・(一財)さっぽろ産業振興財団に対する補助金: 20, 626千円		
	令和5年度予算	・(一財)さっぽろ産業振興財団に対する補助金: 27, 500千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	ICCの利用者数					
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定			
	1,858人	6,000人	3,843人	—			
活動指標2	指標名						
	令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定			
成果指標1	指標名	創出した他産業企業のクリエイティブ活用事例数(累計)					
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標			
	11件(36件)	4件(40件)	6件(42件)	—			
成果指標2	指標名						
	令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標			
項目	判定	理由					
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	令和4年度の利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていないものの、前年度を上回った。市内の企業やクリエイターのニーズを把握し、産業振興に寄与する活用方法を今後も検討していく。また、デザインコンペの実施等により、目標としていた他産業企業のクリエイティブ活用事例数を達成することができた。					
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	他都市のクリエイティブ産業の振興施策においても、クリエイターの情報発信・人材育成及び企業と事業規模のマッチングを軸に事業を組み立てている。経済産業省でも企業経営へのデザイン導入を推進しており、クリエイター向けの支援に加え、業種問わずすべての企業を対象として本事業を実施することは適切である。					
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	さっぽろ産業振興財団は起業から製品開発、販路拡大など、企業経営に関する多岐にわたった支援をしており、同財団が本事業を実施することで、企業のビジネスプロセスに応じて必要なクリエイターとのマッチングが可能である。クリエイティブ産業の有用性を認知するところから実践するための補助金まで、企業の成長度合いに対応した一連のメニューを提供していることから、事業の実施手法として適切である。					
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	デザインコンペに付随して開催したブランドデザインに関するセミナーにおいては、ブランディングについてすべての参加者が「よく理解できた」「大体理解できた」と回答を得るなど、市内企業のニーズを捉えた支援施策を提供できている。					
市民参加の実施	☐ 企画 ☒ 実施 ☐ 評価 ☐ 対象外		市民参加結果への対応		☐ 回答 ☐ 反映		
今後の改善点	経営全般にデザインを取り入れる企業と制作力のあるクリエイターのマッチングに加え、事業で生まれた好事例の発信にも注力していくことで、市内企業での水平展開を促していく。						
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
今年度取り組んだ見直し内容	クリエイターの掘り起こしや企業のパートナー探しをサポートするため、補助金のスキームにコンペ形式を導入した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円		
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
評価の理由	補助金のスキームに企業課題を解決するアイデアをクリエイターから募集するコンペ形式を導入し、マッチング後も丁寧な伴走支援を行うことで継続的なパートナーとなるよう支援することができた。						
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☒ 改善 ☐ 現状維持 ☐ 休止・廃止					
		デザイン経営の普及啓発や市内企業のデザイン経営実践を後押しできる施策を展開していく。					
	予算	☒ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ その他		必要な予算を精査のうえ対応。			
			見直し効果額	0	千円		